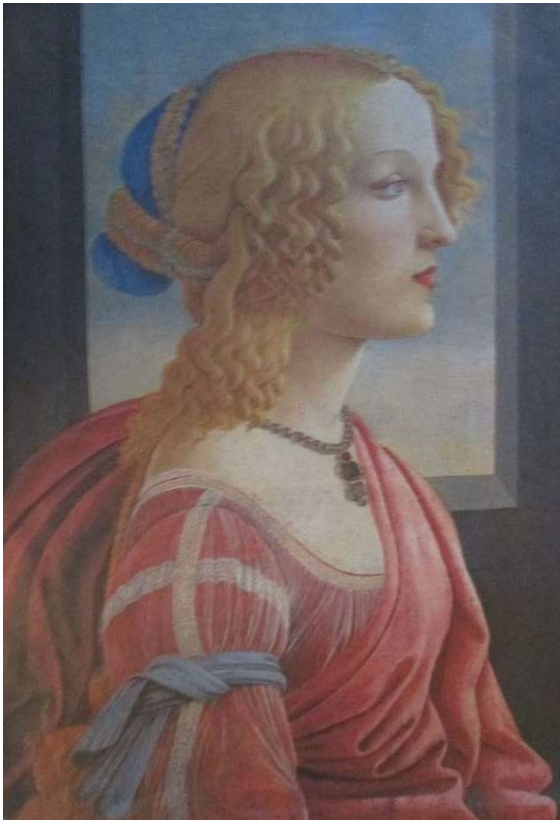


ボッティチェリ特別展 美しきシモネッタ

丸紅ギャラリー(竹橋) 開催中～23. 01. 31

ボッティチェリ 《美しきシモネッタ》

15 世紀後半 テンペラ/板



「サンドロ・ボッティチェリ」(1445～1510)は、初期ルネサンスで最も業績を残したフィレンツェ派の代表的な画家で、宗教画や神話画の傑作が多い。

開催中の本展覧会は、日本にただ一つの“気高く美しい女性の姿が、真横からテンペラ、板で描かれている”

「ボッティチェリ」の「美しきシモネッタ」の、たった「1点」の展示品であるが、語り尽くせぬ逸話と崇高美を備え、言葉通り、数奇な運命をたどり、多層的な読み解きを誘う物語を備えている。

この絵画は19世紀初頭フランスの画家・画商がイタリアで購入し、再発見されたものであるが、人目に触れる機会が限られ忘れられた存在であった。

その後、1819年に「ヴィーナスの誕生」や「プリマヴェーラ(春)といった傑作が、イタリア・フィレンツェの「ウフィツィ美術館」に収まり、19世紀後半にラファエル前派画家が再評価し、ルネサンスの巨匠として蘇ったものである。

描かれているモデルは、15世紀フィレンツェでも、比類なき美で知られた「シモネッタ」とされるが、23歳で早世するが「新婚女性が身に付けるような宝石が描かれていることから、彼女の結婚祝いのために描かれた」とされる。

作品は、ラピスラズリの髪飾りや肌の色は鮮やかで、顔の輪郭をはじめとする線も美しく、容貌だけでなく教養も豊であったとされる魅力を、遠く見るまなざしや凛とした気配を含めて非常に品よく描かれている。

この美しい肖像画は、時代の美意識、なかんずく秀逸な一人の画家の美意識を凝縮させたものと捉えることができるであろう。この絵画は、この後、この生きた美しい人の描写から一層洗練された人間の理想像の創出へと向かってゆくこととなる。 木島俊介：「名画が愛した女たち。画家とモデルの物語」より